

世田谷区軟式野球連盟

審判技術講習会資料

3人制審判

1 塁塁審のフォースプレイ

- ① 審判員の立ち位置、ベースから 5~6 メートル、野手から 3~4 メートル。
野手が送球した時の位置もベースから 5~6 メートル。
角度は 90 度。
- ② リードステップは右足を引いてラインに平行になる。二遊間寄りの打球はインフィールドに少し入る。
プレッシャーボール(一塁手寄りの打球)の時はファールゾーンに出て判定。
ライトゴロはコーチスボックスまで移動して判定。
- ③ 目を離すタイミングは野手が送球した時。ハンズオンニーの姿勢で、ベース、野手、打者走者、全体を視野に入れる。
- ④ 2 塁からの送球が視野に入るポジション。
- ⑤ 完全捕球を確認して、一呼吸おいて判定。タイミングだけで判定はしない。

2 塁盗塁

- ① 目を離すタイミングはキャッチャーがセカンドに送球した時。左足を引いて準備をしておく。ベース、野手、走者全体を視野に入れる。
- ② 完全捕球の確認、タッグ、ノータッグの確認、タイミングだけで判定しない。

打球判定。ランダウン(球審。3 塁塁審)

- ① ラインキープ
- ② ベースの以前か以遠か。ベースを過ぎていく打球は全て塁審。ライン際 3 塁手でボールが見えない時は球審。

- ③ 適切なポジションはコーチスボックス付近で動かない。判定区分は半分。
- ④ 2、3歩前に出る。
- ⑤ オン・ザ・ダック(左手人差し指でタッグポイントを差し「オンザタッグ、ヒズアウト」とコールする)
ノータッグ(タッグ行為があったにもかかわらず、タッグをかいくぐっている。ボールを手に持って、グラブでタッグ。等) ラインアウト(タッグポイントから3フィート以上走者が逃げた時「ラインアウト、ランナーアウト」とコール)

★前の走者と後の走者が一緒に3塁ベース上に位置した場合。二人にタッグがあった時、前の走者に「ユーセーフ」を先にコール。後の走者に「ユーアウト」を後からコール。指を差してあげると分かりやすい。

飛球判定(1塁塁審。3塁塁審)

【ポーズ・リード・リアクト】

トラブルボール

次のトラブルボールの場合は、審判はいい角度をとりながらできるだけ近づいて判定する。

- ① 右翼線または左翼線寄りの打球。
 - ② 外野手が前進する地面すれすれの打球。
 - ③ 外野手が背走するフェンス際の打球。
 - ④ 野手が集まる打球。
-
- ① 判定区分はセンターを中心に半分。センター正面の場合は1塁塁審が判定するのが好ましい。
 - ② 1塁塁審、3塁塁審の二人で打球を追わない。
 - ③ 打球を追う場合は意思表示「ゴー・アウト」を発声する。
 - ④ 判定の時は必ず止まって！

★ハーフスイングのリクエスト

球審から「振りましたか？」とリクエストがあった場合「スイング」と発声、アウトの姿勢。
「ノースイング」と発声、セーフの姿勢

★オフ・ザ・バック

タイミングはアウトだが、野手の足がベースから離れた。離れた方向に両腕を振る。

シグナル

★インフィールドフライ

条件を満たす状況で、球審が右手を胸に当てる。塁審も同調して胸に右手を当て、状況を確認する。

★タイムプレー

ツーアウト、ランナー2塁等(スコアリングポジション)の状況、球審が右手で左手首を触れる。塁審は帽子のつば等を触り同調する。

★インプレー中は絶対にボールから目を離さない。!!

ボールの有るところでプレーは起きる。!!

★万が一トラブルが起きた場合は「タイム」をかけ

3人の審判員で協議する。